

1章 はじめに(本資料について)

「確かな学力」を育む

これからの新たな学習指導システムの構築
～アナログとデジタルの学習指導の融合を目指して～



鹿児島市立星峯西小学校

1. 学校のプロフィール

本校は、児童数612名、職員数32名、学級数25学級（特支含む）の学校です。令和3年3月末までに一人1台のタブレット端末が整備されました。それまではICT教育について先進的な研究実践の実績はなく、ごく普通の公立小学校でした。

令和3年4月からこの2年間で学級間格差を解消して学校全体で教育の情報化やデジタル化を推進してきました。その実践が小学館「みんなの教育技術」web版に取り上げられ紹介されました。

本書は、これまで2年間、本校で取り組んできた①教科領域等の授業、②授業以外の補充指導、③家庭学習、④その他（新型コロナ対応における「学びの保障」としてのオンライン授業）の4つの分野での実践が掲載されています。



創 立 42年目

児童数 612名

教職員数 32名

学級数 25学級

※R3.4月から教育の情報化を本格的に推進

※R4.3月小学館「みんなの教育技術」から取材を受け、6月に掲載

※2年間の実践で見えてきたこととは？

2. 本校の取組の経緯及び取り組みの内容

1 本校のこれまでの取組の概要 (R3.4月～現在)

R3.4月に学校経営方針に「教育の情報化」に伴うデジタル化への対応ということを重点課題の一つに掲げて、教職員や保護者に説明。R3.5月には校内でのオンラインの取組(テレビ会議システムを活用した児童総会)を行い、学校内のネット環境を整備。R3.8月末のコロナ第5波の対策として初めて家庭のネット環境調査を実施したところ95.7%であることが判明。学校と家庭間のオンライン体制の構築に向けて実験的な取組を始めました。4年生以上でタブレット端末を持ち帰らせ、学年チーム体制でオンラインでの授業を試行しました。R3.9月以降は学校行事等のYouTube限定配信、R4.1月にはデジタルドリルの導入などを行ってきました。

今年度は、「確かな学力」を育むためにアナログとデジタルのよさを融合させたこれからの新しい学習指導を明らかにする研究を行っています。

2 アナログとデジタルによる学習指導の融合を目指して

本校では、授業、授業以外の補充指導、家庭学習、その他の4つの分野で学習指導の研究に取り組んでいます。これまで私たちが取り組んできた従来型のアナログによる学習指導とタブレット端末等を活用したデジタルによる学習指導をよりよく組み合わせ、これからの新しい学習指導の姿を明らかにしようとしています。今回、これまでの実践を「実践記録集」にまとめて発行することにしました。

R3.4月～『教育の情報化』学校経営方針:近い将来の学校像を示して取り組めることから少しずつ広げていく。

(学校内→学校間→学校と家庭)

R3.4月～『エドテック』学校と家庭を繋ぐデジタル通信システムの構築(安心安全メール→情報発信、ペーパーレス化、押印レス、メールによる欠席遅刻届、Googleフォームでのアンケート調査等)

R4.4月～「確かな学力」を育むアナログとデジタルが融合した新たな学習指導の研究開始(授業、補充指導、家庭学習、その他)

新型コロナウイルス感染者数の推移グラフと本校実践の経緯 (R2.4月～現在)

R3.4月～着任『エドテック』
学校と家庭を繋ぐデジタル通信システムの構築(安心安全メール→情報発信、ペーパーレス化、押印レス、メールによる欠席遅刻届、Googleフォームでのアンケート調査等)

8/27 家庭のネット環境調査
8/30 ネット環境あり95.7%

9/1 時差登校、午前授業
午後在宅学習スタート

R3.4月～着任『教育の情報化』
学校経営方針:近い将来の学校像を示して取り組めることから少しずつ広げていく。
(学校内→学校間→学校と家庭)

9/2 タブレット端末持ち帰りスタート
(4年3組)

9/22,29,30
オンライン授業開始(4～6年)

R4.1月デジタルドリルの導入と試行的な実践

R4.4月～「確かな学力」を育む
アナログとデジタルが融合した
新たな学習指導の研究開始

9/22 保護者説明会YouTube配信

11/7 運動会YouTube配信

3/8 半成人式YouTube配信

3/25 卒業式YouTube配信

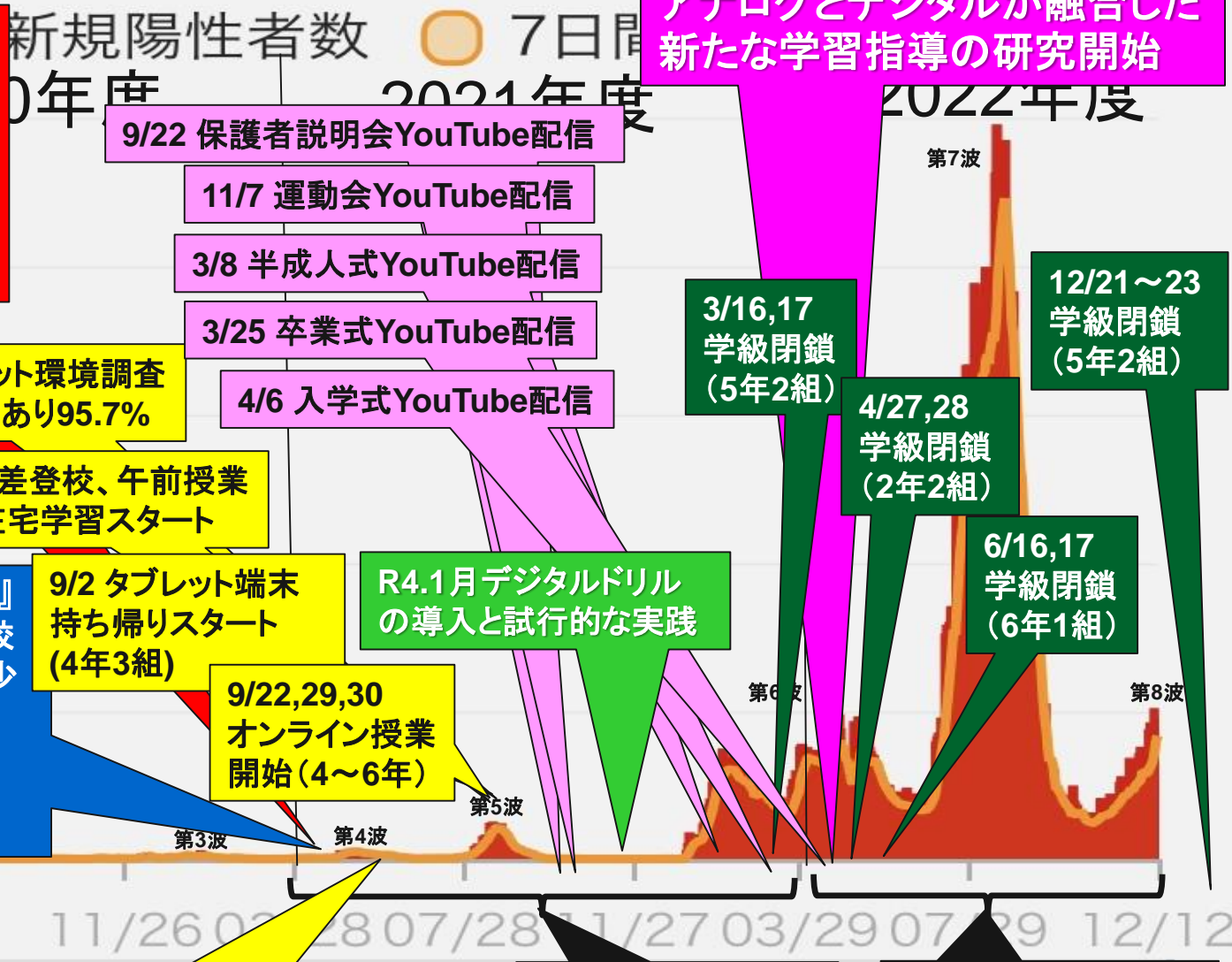
4/6 入学式YouTube配信

3/16,17
学級閉鎖
(5年2組)

4/27,28
学級閉鎖
(2年2組)

12/21～23
学級閉鎖
(5年2組)

6/16,17
学級閉鎖
(6年1組)



R3.6月テレビ会議システムでのオンライン児童総会

R3感染者累計16人
全児童の2.5%

R4感染者累計157人
全児童の25.6%

「確かな学力」を育むこれからの学習指導の構築
～アナログとデジタルによる学習指導の融合を目指して～

すべての教科領域で情報活用能力を基盤にして育成する

（授業以外）
補充指導

関連

授業改善

付け

家庭学習

関連付け

関連付け

デジタル学習指導（学習者用デジタル教科書、タブレット端末、デジタルドリル、AI教材、ロイロノート、テレビ会議システム等）

アナログ学習指導（紙の教科書、ドリル、教科用ノート、家庭学習ノート等）

学校間(教員間)格差を解消し、学校全体に「教育の情報化」を浸透させるための4条件

1 協働的な取組を基本とする校長のリーダーシップ

(学校経営方針への位置づけ、学校だより等で教職員・保護者への説明・理解、説明責任など)

2 ICT担当教員の育成

(ICT支援員を始めとして接続・設定作業等をサポートする技術スタッフ及び新たな取組を先導する教員)

3 全家庭をカバーするWi-Fi環境の実態把握、整備

(ネット環境調査の実施、本校は全家庭の95.7%でWi-Fi環境ありモバイルルータでの対応)

4 実践の共有化を図る職員研修の進め方

(導入期はチームで実践、全体→グループ→個人の実践へ、実践をサポートし、先導的な実践を共有する仕組、やれることから)

3. 特徴的な実践及び取り組みの成果

学校と家庭を繋ぐオンライン授業の取組や現在取り組んでいるアナログとデジタルの融合を目指した学校の取組に対して保護者の95%以上がよい、たいへんよいと回答しています。先進的な研究実践を行っていなかった学校であっても4つの条件を意識して取り組んでいけば、学校全体での「教育の情報化」は推進できると考えています。現在、授業、補充指導、家庭学習、その他の4つの分野でアナログとデジタルのよさを生かした新しい学習指導の実践が行われており、今後とも継続していきます。

4. 課題・今後の展開

教師が実際に指導しているアナログとデジタルを組み合わせた学習指導は、本当にこの学齢期の子どもたちにとって、この学習内容・場面で確かに有効だと言える科学的な根拠となるデータを更に集める必要があると感じています。子どもの反応やテスト等の結果から感覚的には妥当だろうというレベルで止まっている状況です。子どもの脳の発達と学習指導方法の関係を示す客観的なデータや多数の検証結果等から集約して、アナログとデジタルの使い分け方の妥当性、有効性を明らかにしていきたいと考えています。アナログとデジタルが組み合わされた学習指導による学習効果について更に客観的なデータを集めていきたいと思えます。

※この実践記録集は、下の5章でまとめてあります。

アナログとデジタルの学習指導の融合を目指した 「実践記録集」

【目次】

1章 本資料について(研究の全体構想等)

「確かな学力」を育むこれからの学習指導の構築～アナログとデジタルの融合を目指して～

2章 各教科領域等の授業における実践事例

国語、社会、算数、理科、生活、音楽、体育、家庭、図工、外国語活動、総合的な学習の時間、
道徳、特別活動(学校行事、児童会活動、学級活動など)

3章 授業以外の補充指導における実践事例

ベーシックタイム(朝学習15分間)、パワーアップタイム(土曜授業45分間)

4章 家庭学習における実践事例

家庭学習ノートとデジタルドリル、夏休み中のタブレット端末持ち帰り、反転授業での家庭学習など

5章 その他の実践事例

コロナ感染対応におけるハイブリッド型オンライン授業、学級閉鎖等に伴う完全オンライン授業
各種行事等のYouTube配信 など